



市従労 2020年 旗納め挨拶



金沢市従業員労働組合 書記長 坂下 英之

日頃より市従労運動に対しご支援・ご協力を賜り厚く御礼を申し上げます。

本年を振り返り、市従労を代表して総括及び旗納めのご挨拶をさせていただきます。

はじめに、今年の「第75回定期大会」以降、新たな役員体制の下で課題解決と運動の前進をはかっていく思いを強くしながら、毎日を過ごしていましたが、残念ながら、新型コロナウイルスのために制限されることが多く、例年並み以下の運動すら展開できず、今日に至っています。組合員の皆さんのご希望に沿いきれない状況が続いていることを大変申し訳なく思っています。

激動の1年が終わりますが、本年を振り返るにあたり、やはり新型コロナウイルス感染症の話は避けては通れないかと思えます。まるで映画の世界さながらに、一つの感染症がここまで世界を変える事になるとは、1年前のこの時期は、全く想像していませんでした。未だ、どのような形で収束に向かうのかは、わかってはいませんが、最近、ニューノーマルの生活の仕方にも徐々に慣れてきているように感じます。

【コロナ関連の主な出来事を振り返ると】

- 1月：日本国内で初の感染者確認
- 2月：国内で初めて感染者の死亡が確認
石川県内で初の感染者確認
北海道知事、独自に緊急事態宣言を発令
- 3月：全国のすべての小中高校に臨時休業を要請
東京都知事、都市封鎖（ロックダウン）について言及
東京五輪・パラリンピックの延期発表
- 4月：政府、緊急事態宣言発令
- 5月：政府、緊急事態宣言解除
- 6月：東京アラート初の呼びかけ
- 7月：GO TOトラベルキャンペーン開始
- 11月：コロナ感染、第3波の拡大

どれも強烈な印象で記憶に残っていますが、これらの出来事を経て、人々は感染を恐れ、感染地域への移動、又は感染地域からの移動を嫌い、3密（密閉、密集、密接）を避けるようになり、行動様式も激変しました。

【コロナによる行動様式の変化】

- ・常にマスクをするようになった
- ・旅行や出張をしなくなった
- ・出社を減らしリモートで仕事をするようになった
- ・時差出勤をするようになった
- ・会食、外食をしなくなった
- ・近場で買い物をするようになった

**決してふしない
自信と誇りを胸に**



Point

2020年金沢市従労組 旗納め挨拶

国内の経済に目を向けると、とてもショッキングなデータが発表されました。2020年4～6月期の国内総生産（GDP）は、年率換算で27.8%減り、これはリーマン・ショック後の2009年1～3月期の年率17.8%減を超える戦後最大の落ち込みとなりました。

そのような情勢の中、「2020年度人事院勧告」において、一時金の支給月数を0.05月引下げ、年間4.45月とする給与勧告と公務員人事管理に関する報告を行いました。一時金の支給月数の引下げは、新型コロナウイルスの感染拡大による経済状況と比較されることの多いリーマンショックによる景気の低迷を受けた2009年（△0.35月）及び2010年（△0.2月）以来となり、新型コロナウイルスの感染拡大に対し国民の命と暮らしを守るため職務に奮闘している組合員の努力を踏まえると、マイナス勧告は残念な結果となりました。

これらの変化を2019年の年末時点で予見できた人は、どれだけいたでしょうか？

大多数の人は、2020年1月の時点でも対岸の火事と思われていたのではないかと思います。

やはり大事なことは、予見できないような突発的な変化に、どう対応するかだと思います。

市従労でも、この1年色々と試行錯誤を繰り返してきました。

- ・新型コロナウイルス感染症に対する職員の感染防止対策に関する意見書の提出
- ・執行委員会のZoomを使ったりリモート会議の実施
- ・他県への出張の中止
- ・上部団体による会議や大会への対面出席（出張）を止め、Web出席に切替
- ・組合員へマスクの配布やインフルエンザ予防接種の助成
- ・夏場のマスク着用による熱中症予防対策（冷感スプレー等の常設）
- ・待機場所及び食堂利用の分散化周知
- ・市従労定期大会の簡素化
- ・市労連定期大会の書面決議開催の実施

これらの試行錯誤がどれだけ正しいものであったかは、まだ分かりませんが、試行錯誤すること自体に意味があるように思えます。この1年を振り返り、世の中は予見できないことが突然起こること、そして、その変化に対し真正面から対峙し試行錯誤する重要性を、学ばせて頂いたように思います。

最後に、今後の展望として、アフターコロナを考えるには時期尚早といわれるかもしれませんが、考えておくべき事があると認識しています。

やはり、労働組合として、社会がどのように変わっていくのかについて、しっかりと見極めていくことが求められています。そのうえで、運動をどのように展開するのか、運動の主体となる組織をどのように構築するのかも考えていかなければなりません。

完全に元のような社会に戻るのか、それともウイルスとの共生を前提とした新しい社会を作っていくのか。未知のウイルスとの闘いゆえに先行きも見通せないことが多く、何が正解で、何が間違いかも分かりにくくなっています。しかし、こうした時だからこそ、私たちは、労働組合としての基本を大切にしていける事が重要だと考えます。

結びにあたり、来年一年が皆様とご家族にとって幸多い年である事をご祈念申し上げ、金沢市従業員労働組合を代表しての旗納めのご挨拶とさせていただきます。

冒治券

N市従労
NEWS

第148号

発行2020年12月24日

金沢市従労組 情報宣伝部

